第１回（仮称）屋代 SIC を活用した魅力あるまちづくり方針等策定委員会　議事録

１　日時：令和７年５月 26 日（月）午後１時 30 分から３時 00 分

２　場所：千曲市役所 301 大会議室 AB

３　出席者

委員：9 名（樋口委員（会長）、小林委員、石井委員、保木野委員、杉木委員、林委員、島田委員、酒井委員、田村委員）

オブザーバー：長野県千曲建設事務所 足立所長

事務局：公民共創推進室、都市計画課、㈱オリエンタルコンサルタンツ

４　議事

（１）開会

（２）あいさつ

企画政策部栗原部長より開会の挨拶があった。

（３）委員紹介

（４）会長、副会長の選出

委員全員の賛同を得て、会長には樋口委員、副会長には熊谷委員が選出された。

【会長】私は新潟工科大学において都市計画を専門としている。次の時代を担うのは若い世代であるため、魅力ある地域をその世代に継承できるよう、皆様とともに議論を進めていきたい。また、多くの地方都市が人口減少に直面している中、（仮称）屋代 SIC の整備のような新たな機会を、魅力的なまちづくりへと繋げていくことが重要である。乱開発は将来に負の遺産を残すことになるため、次の世代に誇れるまちづくりを目指し、皆様とともに議論を深めていきたい。今後ともご協力をお願いしたい。

（５）会議事項

１）（仮称）屋代ＳＩＣを活用した魅力あるまちづくりの検討について

事務局から「資料４　（仮称）屋代ＳＩＣを活用した魅力あるまちづくりの検討」について説明を行った。

【委員】「屋代 SIC 周辺地区まちづくりビジョン（仮称）」の作成にあたっては、市民の意見を踏まえて、検討を進めることが重要であると考える。このため、意見交換会の開催に際しては、多くの市民に参加していただけると良い。

【事務局】「屋代 SIC 周辺地区まちづくりビジョン（仮称）」の作成に向けて、市民の意見を把握するため、千曲市公式LINEを活用した市民ニーズ調査及びワークショップ形式による意見交換会の実施を予定している。具体的には、まず市民ニーズ調査において、屋代 SIC 周辺地区のまちづくりや、

将来像に対するニーズ等の把握を予定している。意見交換会については、子育て世代に限らず、幅広い世代の市民の方々にご参加いただき、屋代 SIC 周辺地区のまちづくりに関する意見交換を行う場となるよう、現在準備を進めている。なお、委員の皆様にも、ぜひ意見交換会に参加していただきたい。

２）基礎調査の結果報告について

事務局から「資料５　基礎調査結果報告」について説明を行った。

【委員】素朴な疑問として感じることがあるので教えてほしい。更埴 JCT に近いところに SIC を設置する計画である。その効果は移動時間等において、数分レベルのメリットとなっている。市民感覚ではそれほど大きな効果がないようにも感じるが、何が決め手になって屋代地区に SIC の設置が決まったのかをわかりやすく追記してもらえると良い。物流や製造業の誘致のメリットなどがあるのだろうと思うが、更埴 JCT に近接する場所で、そうした効果があるということがピンとこなかった。補足説明をいただけるとありがたい。

【事務局】千曲市全体の産業に関する「千曲市産業連携道路ネットワーク構想」というものがあり、その中で屋代地区の SIC も位置づけられている。市内には雨宮産業団地や八幡東工業団地、更にその西側には八幡工業団地があるなど、様々な産業集積地がある。これらを道路で連絡して産業のネットワークを構築するのが構想で目指しているところである。この資料については、改めて委員会で示したい。また、委員から数分の時間短縮がどのような効果をもつのかというご質問を頂いた。雨宮産業団地に立地する企業の視点で言えば、SIC の設置によって、更埴 IC に集中してしまう交通の分散が図られることや、東京方面の時間短縮はコスト縮減につながる効果がある。そうした資料を委員の皆様にご提示させていただきたい。

【会長】高速道路が近くを通っていても、IC がなければ高速道路を利用することはできない。加えて、SIC は従来の IC と比較して整備費用が安価であることから、他地域においても SIC の整備によって産業振興を図っている事例が複数見られる。なお、（仮称）屋代 SIC については、事業認可が２年前に下りているとのことであり、相当前から本事業の検討を進めていたものと推察される。市は本事業をいつ頃から計画していたのか。

【事務局】平成 21 年に策定された千曲市都市計画マスタープランでは、既に（仮称）屋代 SIC の整備について言及されていた。

【委員】長野県は非常に広い。そうした中で県民が集まりやすい場所がどこかと言えば、松本市は集まりやすい。県レベルの大会なども松本市が会場であれば、千曲市からも行きやすい。一方、佐久方面から松本市へは、一般道路しかないため行きにくい。佐久から松本に時間に正確に行こうとすれば、上信越自動車道を通って更埴 JCT を経由し、長野自動車道を利用して松本市へ向かうことになる。一方、千曲市は、長野県内において、長野市および、松本市の中間に位置している。両市からのアクセスが可能な更埴 JCT があることから、県内でも交通の利便性が高い地域である。こうした県全体からの視点についても、本資料に加えられると良い。

【会長】人口減少の時代であっても、人の移動はなくならない。委員がご指摘の移動の視点で、この地域をとらえることも重要である。「地の利」は確かに地域の強みである。また、別の視点で事務局に質問したい。市の人口は減少傾向にあるものの、社会動態に着目すれば、転入者数が転出者数を上回っている。この点は、地方都市としては珍しく、千曲市の持つ魅力を示す要素の一つである。資料 14 ページの図に宅地開発の位置が示されているが、これは開発許可のデータを使用したのか。

【事務局】2015 年から 2019 年までの５年間の開発許可のデータを使用した。

【会長】開発規模は 3,000 ㎡以上を拾っているのか。

【事務局】1,000 ㎡以上である。

【会長】先ほどの千曲市立地適正化計画に関する説明にもあったとおり、市街地に近い位置で宅地開発が進んでおり、コンパクトなまちづくりは千曲市の持つ魅力の一つである。

３）意見交換会の実施について

事務局から「資料６　意見交換会の実施方針（案）」について説明を行った。

【委員】市民ニーズ調査表（案）の①及び②の設問では、休日の過ごし方に限定して市民の意向を把握する構成となっている。このため、まちづくりの検討にあたって、市民の休日の生活実態のみに焦点を当てていると受け取られるかもしれない。また、子育て世代の視点で言えば、保育園に預ける年齢は普通3・4歳である。それまでは家庭内保育になるが、そうした世帯が何を求めているかということを把握することも重要である。休日だけにこだわらず、平日についても聞いたほうが良い。また、①及び②の設問文に使用されている「まちづくり」という用語は、市民にとって必ずしも馴染みのある表現ではない。例えば「市民の皆さまのご意見を踏まえて施設の内容を検討しています」など、事務局の意図を補足する文言を設問文に追記できると良い。さらに、対象地に求めるエリアや機能などについて、自由記述で回答してもらう設問を追加することで、市民の多様なニーズを把握することにつながると考える。

【事務局】ご指摘を踏まえ、平日の過ごし方に関する設問を新たに追加する。また、「まちづくり」に関する設問については、回答者がイメージしやすいよう設問文を工夫する。さらに市民の多様なニーズを把握するため、自由記述形式の設問を追加する。事務局で改めて調査票の内容を検討する。

【会長】調査表（案）の最初の設問が記述式となっているため、回答者が答えづらいかもしれない。

【事務局】事務局としては、あらかじめ想定できる場所を選択肢として提示すると、回答者がその選択肢に誘導されてしまい、想定外の場所を拾い上げにくくなることを懸念して記述式とした。ただ、記述回答のみの設問では、回答のハードルが高くなる可能性があるため、ご指摘を踏まえ、回答形式について検討する。

４）全体を通じた意見交換

【会長】一通り議事は済んだが、他に意見があればぜひお願いしたい。

【委員】私は戸倉上山田商工会の代表で本委員会に参加させていただいている。戸倉上山田商工会としては、（仮称）屋代 SIC 周辺地区から距離があるため、これまで本委員会の検討内容に対する関心が薄いという現状があったかもしれない。今後は、委員会の内容を商工会内で共有し、関心を高めることで、千曲市全体が一体となり、まちづくりを推進していきたい。

【委員】私は屋代地区開発事業に係る地権者の会の会長として参加している。（仮称）屋代 SIC 周辺地区における区画整理の構想段階から関わってきた。今回の資料の内容には、私たちが関わってきたものが多い。地権者が自分たちの思いを入れながら、「この地域を良くするためにこういうものがあったら良いのではないか」や「商業施設はこういうものがあれば良いのではないか」などの検討に取り組んできた。そうした中、まちづくりの構想の実現性が高まったのは、SIC が決定した最

近のことである。そして、少しずつではあるが、こうやって動き始めている。これからの議論で大切なのは、市全体でこのまちづくりをどう考えるかである。その意味では、地権者だけがまちづくりを考えるのではなく、色々な方々が口を挟んでもらった方が良い。みんなでこのまちを創り上げていってほしいと思う。

【委員】私は、あんずの里の方に住んでおり、東部地区の代表として出席させていただいている。東部地区では、あんず街道の踏切やその周辺の信号によって発生する交通渋滞が深刻であり、救急車が病院まで円滑に到達できないこともある。地域住民の視点では、（仮称）屋代 SIC の整備によって、交通渋滞の緩和が図られることを期待している。

【会長】（仮称）屋代 SIC の整備によって、周辺地区にとどまらず、東部地区を含めた千曲市全体の課題を解決できると良い。

【オブザーバー】今日はオブザーバーの立場で参加した。県としては、市内の渋滞解消に関係しており、今後、意見を述べさせていただければと思う。また、資料５「基礎調査報告」の浸水想定区域に関連する話をしたい。令和元年の台風時には、一級河川の沢山川が氾濫した経緯がある。このような防災の観点も含めて、今後も対象地の整備内容を注視し、意見を述べていきたい。

【会長】防災の視点は重要である。今後のビジョン検討においても、防災の観点を反映しながら進めていけると良い。

【委員】私は商工会の推薦で、委員として参加させていただいている。普段は観光関係に携わっているため、これまでは主に観光分野に注目していたが、今回の委員会資料の説明を通じて、産業分野ごとに詳細な検討が行われていることを知った。今回の検討が、千曲市全体の産業振興につながり、ひいては人口減少問題の解決にも寄与することを期待している。

【委員】千曲市農業委員会の会長を務めている。我々は農地を守る立場である。（仮称）屋代 SIC の整備に伴い、多くの農地が失われるが、そうであればこそ、このまちづくりを進めることで、多くの人が訪れるようにならないといけない。例えば、長野県は山岳の県である。ボルダリング競技のオリンピック強化施設のような施設があれば、世界からも、日本からもこの地域に練習で来る人が増えると思う。そういった施設を提案したい。

【会長】本事業により、魅力的な農地が失われてしまうのは残念である。農地との親和性を考慮しながら SIC の整備を進められると良い。長野県にはインバウンドの登山客も多く訪れており、山岳登山を目的とした来訪も多いと思う。このような観点からも、保木野委員のご意見は重要である。今後、山岳スポーツに関連する施設の導入可能性についても検討していけたら良い。

【委員】長野県立歴史館で勤務している。来館者からは公共交通の不便さにより来館が難しいとの声が多く寄せられている。このため、（仮称）屋代 SIC の整備によって人が集まる拠点が形成されることはありがたい。また、対象地周辺には屋代遺跡群や更埴条理遺跡といった遺跡が存在し、現在は市の教育委員会によって工事前の発掘調査が進められている。こうした土地の歴史的意義についても、この委員会の場で皆さんと一緒に勉強し、議論していきたい。さらに、市内には戸倉上山田温泉や稲荷山地区など、多様な文化財が点在しており、それらを連携させることで、千曲市全体の魅力を高める視点が重要である。今後は、令和４年度に策定された「文化財保存活用地域計画」も踏まえながら、委員の皆様とともに千曲市のまちづくりについて議論していきたい。

【会長】この委員会が始まる前、古墳の上部、山の上まで登ったところ、本エリア全体を一望できる素晴らしい眺望であった。市内には多くの文化財が点在していることから、今後の SIC の整備においても、こうした文化的資源を活かし、何らかの形で地域の魅力として残していけると良い。

【委員】市民ニーズの調査では、LINE での意見収集が予定されているが、LINE を利用しない層の回答が少なくなり、回答者層が偏ることを心配している。そのため、意見交換会は誰でも参加できるようにしていただきたい。また、交通渋滞の解消に向けては、（仮称）屋代 SIC の整備と併せて、屋代駅西口につながる道路の整備も並行して進めなければ、十分な効果が得られないと思う。屋代駅西口につながる道路についても、期成同盟会もあるので、整備を進めていただくことを期待する。

【委員】森将軍塚古墳の祭りやあんずの花火大会などのイベント開催時には、駐車場の不足や周辺道路の混雑により、交通渋滞が発生している。千曲市内には数多くの魅力的な観光資源が存在するものの、公共交通の利便性が十分とは言えず、地域の魅力を活かしきれていないと感じる。（仮称）屋代 SIC の整備により、自動車でのアクセス向上が期待される一方で、旧長野電鉄屋代線の線路跡を活用した自転車道の整備など、自動車以外の移動手段の充実も重要である。また、それらを効果的に接続するモビリティハブの設置など、持続可能な形で移動環境を整備していけたら良い。さらに、市内各施設間の連携や情報発信の面にも課題がある。例えば、更埴 IC では戸倉・上山田温泉に関するチラシを見かける機会が少なく、反対に戸倉・上山田温泉エリアでは、あんずの花の季節を除けば、あんずの里周辺に関する情報を目にする機会が限られている。このような状況を踏まえ、地域間の情報共有や誘客連携を強化するためにも、移動手段の多様化と市内の周遊性の向上に向けた取組が必要であると考える。

【会長】委員から持続可能の視点で様々なキーワードをいただいた。対象地周辺には長野県立歴史館をはじめ、魅力的な施設が点在しているため、これらの施設を結ぶ情報及び移動のネットワークが構築できると良い。また、先ほど委員から「多様な方の意見を取り入れることが重要である」との発言があった。他都市の話であるが、総合計画の策定にあたり市民アンケートを実施した際、若い世代の声を拾い上げることに苦労した。その中で、教育委員会を通じて学校単位で小中学生の意見を聴取してはどうかと提案し、実際に小中学生からの意見を収集したことがある。子どもたちは、大人が想像している以上に地域をよく見ており、しっかりとした考えを持っている。大人が何を考え、どのように行動しているかを子どもたちに伝えるとともに、子どもたちの声に真摯に耳を傾けることが重要である。今後、小中学生をはじめとした若い世代の意見を取り入れる方法について検討していける良い。

（６）その他

【事務局】本日いただいた意見については、議事録を作成し、欠席者も含めて全員に郵送をさせていただく。また、本日の質疑でいただいた内容の関連資料として、千曲市産業連携道路ネットワーク構想図も一緒に同封させていただく。

（７）閉会

【事務局】次回の委員会は、７月または８月の開催を予定している。日程が決まり次第、委員各位に連絡する。

以上